



学校通信

令和4年

7月29日

河北町立

谷地中部小学校

歴史を学ぶ楽しさ・歴史を学ぶ意味

7月21日(木)、1学期の終業式を行いました。今年度の1学期の授業日は、70日、その間、保護者、地域の皆さまには、登下校における見守りをはじめ、運動会やふるさと学習など多岐にわたりご理解とご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

7月12日(火)～13日(水)、6年生が福島方面へ修学旅行に行ってきました。1日目のブリティッシュヒルズ(標高1,000m:福島県天栄村)では、英国の霧囲気の中で英語を使つての生活を体験しました。うっすらと霧に包まれたスコットランド風の町なみの中、石畳の道を歩いて宿舎や食堂、教室などに移動しました。チェック・インやテーブル・マナーもすべて英語でした。その中で子どもたちは、英語での授業やドリームキャッチャー作り、ボードゲームなどを楽しむことができました。

2日目は、会津若松市を散策しました。武家屋敷や鶴ヶ城では、随所で歴史に興味を持つ6年生の姿が見られました。江戸時代末期の資料や展示物を見ながら、これまでに本やインターネットで培った知識を重ね合わせてグループごとに対話したり、説明し合ったりととても有意義な時間を過ごすことができました。

今、6年生は、総合で【河北町の歴史】について調べています。先日も地区の方々7名を講師にお迎えし【昭和30年代の賑わっていた町の様子】についてのお話をいただきました。自分たちの河北町についてより深く知ることができたようです。学習後の振り返りを見ると、今自分が住んでいる地区について比較している子もいました。このような子どもたちの様子を見て、私も、本校の修学旅行の足跡について調べてみたくなりました。『中部小の百年』に本校旧職員鈴木ちよ子先生が、「遠足と修学旅行引率記事」として記されていました。その一部を原文のまま引用させていただきます。

上山旅行(6年生) 6年生は庄内旅行を楽しみにしていたのに、昭和7年の大凶作で農家は困窮をきわめ、町全体が不景気風にあおられ、庄内旅行ですなどと言い出せない年であった。何と云って生徒達を納得させたらよいか苦慮したが、「おしんの心」が培われていたせいか、旅行とりやめに文句一ついわず、かえって可哀そうだった。その代わりに日帰りで上山まで汽車旅行をした。やはり神町までは往復は徒歩で、本線にだけ乗った。(以下略)

本年度も、修学旅行に行かせていただいたことに改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

校長 丹野 宏紀